

# JBC Junior All-Japan Bowling Games 2021

1月9~11日  
稲沢グランドボウル

## コロナを吹き飛ばせ！ 小・中・高のジュニアが名古屋で熱投



1フロア116レーンをフル使用で、密を避けながらの開催

例年は夏休み期間中に行われる全日本高校選手権、全日本中学選手権、全日本小学生大会は、新型コロナウイルスの影響でいずれも延期となっていたが、1月9～11日まで（小学生大会は10～11日）、愛知・稲沢グランドボウルで「Junior All-Japan Bowling Games 2021」として同時開催された。緊急事態宣言の再発出や北陸地方を中心とした大雪の影響で、若干の辞退者はあったが、計494名が出場して、待ちに待った大会で元気一杯の熱戦を繰り広げた。男子は小学4年生の部を除き両手投げ選手が優勝を独占、本格的なダブルハンド時代の到来を印象付けた。（主催：(公財)全日本ボウリング協会）

### JOCジュニアオリンピックカップ 第44回全日本高校ボウリング選手権大会

## 男女とも2年生の吉原、石本両選手が初優勝

男子は、事前に発表された「この大会のレーンコンディションを作ってもらって、練習を積んできた」と、1年生の前年度は3位だった吉原正明選手（埼玉県立川越西高）が、予選（9G）を快調なペースで、2位



◀両手投げから豪快なストライクを連発して初優勝の吉原選手

689の田口選手も、吉原選手には差を広げられたが、2823で2位を守った。

女子は、予選1G目を279と好スタートの石本恵梨奈選手（大阪成蹊女子高）が、2103の1位で決勝に進んだ。石本選手は決勝1G目179とスコアを落としたが、最終Gは1フレからストライクを連発して早々と勝負を決めた。「途中で失投がストライクになってくれていけると思ったんですけどね…」と振り返ったが、完璧に思えた最後の1投は⑩タップで299。パーフェクトは逃したが、トータル2784で文句なしの初優勝を飾った。2位には予選3位の岩元美咲希選手（名古屋市長若宮商業高）が2665で入った。



▲優勝の吉原選手(左)と石本選手



◀サウスポーの田口選手は安定した内容で2位

の田口智博選手（名古屋工業高）に47ピン差をつける2181を打ってトップで通過すると、決勝（3G）も244、269、256と完璧な内容で、トータル2950で優勝した。決勝を



◀「パーフェクトで決めたかった」と、最後の⑩タップを悔しががる石本選手



▲1年生時に続き最終学年でも準優勝の岩元選手

### 文部科学大臣杯 第44回全日本中学ボウリング選手権大会

## 女子は石田選手が濱崎選手を振り切り連覇

終学年を念願の初優勝で締めくくった。内藤選手も決勝は620とやや伸び悩んだが、2693で2位の座をキープした。

女子は、予選最終シリーズに741を打った濱崎りあ選手（横浜市立原中）が、石田万音選手（神戸市立西神中）を8ピンリードする2051の1位で決勝に進んだ。決勝も、前年度優



▲優勝の愛甲選手(左)と石田選手

男子は、愛甲雅治選手（宮崎大学教育学部附属中）が、予選1G目こそ187だったが、2G目に279を打って波に乗り、2158で2位の内藤広人選手（浜松市立与進中）に63ピン

差をつけていた。愛甲選手は、決勝は1G目に243を打ってリードを広げ、2G目の168を「投球リズムが悪くなってスコアを落とした」と反省点に挙げたが、トータル2769で最



◀「地元センター（宮崎エースレーン）の協力があったって優勝できた」と愛甲選手



▲準優勝の内藤選手。最終年に雪辱を期す



◀接戦を制して連覇の石田選手「いい仲間のおかげで競い合えた」



◀2年連続で石田選手に屈し準優勝の濱崎選手

勝の石田選手と2位の濱崎選手の激しい優勝争いとなった。2G目252を叩いた石田選手に対し、濱崎選手は177と落として、石田選手が74ピン逆転して最終Gを迎えた。その最終G、濱崎選手は258を打って猛追したが、7フレまで3つのオープンを作った石田選手が、8フレからフォースを決めて、14ピン振り切る2707の大会新記録で連覇を飾った。